

鳴門市自立支援協議会 地域移行支援部会の取り組み

地域移行支援部会の概要

目的

精神科病院に入院している障がい者又は障害者支援施設等に入所している障がい者の地域移行を促進することを目的とし、病院・施設等の地域移行への課題を共有、問題解決を図る。

内容

地域移行への課題の把握と解決

地域移行支援サービス(地域移行・定着)の利用促進

構成員

鳴門市福祉課、基幹相談支援センター、鳴門市内の精神科病院・クリニックのソーシャルワーカー等、鳴門市内の入所施設職員、相談支援事業所、福祉サービス事業所(グループホーム、生活訓練)、保健所等



活動内容(平成25年度～令和元年度)

- ・精神科病院・入所施設に課題把握を目的としたアンケート調査の実施
- ・勉強会(顔の見えるネットワーク作り)、事例報告
- ・研修会(サポートきぬた金川氏、地域活動支援センター櫻中野氏、愛媛県松山市の地域移行の取り組み)
- ・地域移行支援事業啓発ポスター作成委員会への参加(板野郡精神部会)
- ・ひとり暮らしマニュアルの作成
- ・精神科病院での懇談会



地域移行支援部会でのアンケートの回答

地域移行が進まない要因について

- 病状が不安定、本人・家族が高齢化している
- 家族が反対している(受け入れ拒否)
- 退院を希望していない(考えたことがない、意欲がない)
- ひとり暮らしに対する不安がある
- 住居の問題(保証人がいない)
- 病識がない方に対する支援が難しい



あなたの退院! 寄り添う人が おるんですよ

退院することを
あきらめんといで!



家に帰っておいしいコーヒーを
1杯飲まんで?

不安もある。
ほなけどいろいろな相談に
乗ってくれるんですよ。

あなたの望みを
応援します!

【問い合わせ先】

地域の相談窓口があります。「退院ポスターを見た」とお電話ください。
 ・オリーブの木 088-685-5524 (担当: 楠・益田)
 ・ことじ 088-694-6606 (担当: 原田・久米川)
 病院のソーシャルワーカー・看護師にも相談できます。

地域移行支援・地域定着支援普及啓発ポスター

じぶん 『自分らしい』暮らしのガイド

~ひとり暮らし、してみいへんで?~



ホームヘルパーに料理を手伝ってもらったり、「配食サービス」を利用している人もいます。

ひとり暮らしをされている方に聞いてみました



わたしは料理が苦手なので、週2日ヘルパーさんに夕食を作ってもらいます。他の日は惣菜や弁当を買ってきて食べます。食は、ディケアや就労の事業所でお弁当を食べたり、レトルトや冷凍食品、麺類など簡単な物ですませています。



私は糖尿病もあり、食事のコントロールが大切なので、夕食は栄養のバランスのいい配食サービスを利用してしています。色々な業者がおり、値段や味を比べることができます。材料費も無駄にならないので、満足しています。

配食サービス



地域移行支援部会取り組みの効果

地域移行支援サービス利用の実績には繋がっていない状況。(平成29～令和元年度の地域移行支援実績は2名)

一方、同じ福祉サービスでも生活訓練事業やグループホームは3年間で20名以上がサービスを利用し退院している。

精神科病院からの退院支援は行われているが、地域移行支援サービスが利用されていない現状がある。

部会活動の振り返りと考察

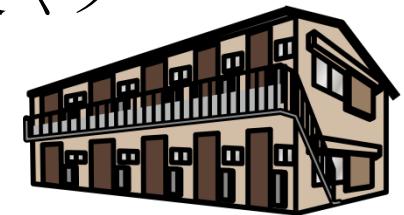
令和元年までの地域移行部会活動を振り返り、精神科病院(南海病院)での現状と課題を整理し、地域移行支援サービス利用促進に繋がるよう今後の部会活動を考えていいく。



地域移行支援サービスが使われない大きな理由として

- ・直接地域に退院するより施設利用する方が病院スタッフは安心して患者や家族に利用を勧めることができる。(地域への退院はハードルが高いが、施設であればなんとか…)

南海病院では退院の支援が必要=生活訓練事業やグループホームの構図がある。



- ・地域移行支援サービスは知っていてもサービスの本当の理解はされていない状況がある。(Dr.や患者本人がサービスのことを知らない。PSWが利用したことがない。本人や家族に詳しくサービスの説明が出来ない。法人外の支援機関にお願いするのは抵抗がある等。)

活動内容の見直し(令和2年度～

これまでのような研修会や勉強会のやり方ではなく、**直接精神科病院に働きかけていく。(サービス利用の実績を上げる)**

令和2年11月から南海病院で行われている社会復帰の会議に基幹相談支援センターと一緒に参加をし、地域移行支援サービスについて病院院長、総師長、各病棟看護主任等の多くの役職者に対して説明や意見交換を行った。

(病院スタッフは地域移行支援サービスに対して決して消極的ではない。やり方が分からなかったり、地域の相談支援事業所や福祉サービス事業所との連携が十分でない状況が分かった)



地域移行支援の対象者の範囲や選定の確認

- ・地域移行支援サービスは必ず退院しないといけないものではない。退院出来なくても本人の退院意欲の促進のために利用することが可能。
- ・地域移行支援のサービスを利用後に生活訓練やグループホームのサービスを利用して退院しても大丈夫。
- ・退院に不安がある患者こそ利用すべきサービス。退院意欲がない。家族が反対している。退院後の住まいの問題(保証人がいない)。地域生活への不安が強い。等に対して有効な働きかけが出来る。



課題に対する取り組み

地域移行支援事業の対象者選定の範囲・利用までの流れ(フローチャート)を作成

- PSWが定期的に利用対象者をリストアップしていく。地域移行支援サービスの流れを可視化し、患者に分かりやすく説明する。

新たなアセスメントシートの作成

- 鳴門市の調査票を基に新たなアセスメントシートを作成。事前に市町村や相談支援事業所と連携し、聞き取り調査の短縮を目指していく。



取り組みの効果(サービス利用実績)

第6期鳴門市障がい福祉計画では地域移行支援、地域定着支援の利用実人数は2名となっている。

南海病院 地域移行・定着利用実績

令和2年度

地域移行利用者3名(鳴門市1名)、地域定着利用者1名

令和3年度

地域移行利用者2名、地域定着利用者1名

令和4年度

地域移行利用者5名(鳴門市1名)、地域定着利用者3名



取り組みの効果(サービス利用実績)

- ・新型コロナウイルス感染の影響もあり、退院支援にも制限がありながらも、一定数の利用実績に繋がった。
- ・南海病院以外の新たに精神科病院(鳴門シーガル病院)から地域移行支援のサービス利用の申請に繋がった。
(新たに同法人の相談支援事業所が地域相談支援の指定を受けた。これまでの病院独自の退院支援に合わせて、地域移行支援の選択肢が増えることは患者さんにとって良いことだと思います。)

今後の地域移行支援部会の活動について

- ・鳴門シーガル病院との連携(後方支援)



- ・障害者支援施設等に対する働きかけ

施設入所者の地域移行支援、目標が入所者数の6%となっているが、施設の地域移行の現状の把握。報酬改定により、今後は施設のすべての入所者に対して地域移行の意向を確認する。(意向確認に関する指針未作成の場合は減算とある)施設に意向の確認を行う担当者が置かれ、**相談支援専門員は担当者と連携し、地域移行の確認を行っていく。**

地域移行の意向を確認する担当者と相談支援専門の連携や新設された加算等に期待と、部会として精神科病院だけでなく障害者支援施設等への働きかけていきたいと考えている。

新)グループホームの見学や地域活動への参加等を評価(地域移行促進加算)

新)施設から地域移行し、入所定員を減らした場合の加算(地域移行支援体制加算)

新)グループホームから希望する一人暮らし等に向けた支援の加算(自立生活支援加算)等

鳴門市地域移行支援部会

ご清聴ありがとうございました。

